

# 慢性閉塞性肺疾患(chronic obstructive pulmonary disease ; COPD)患者の 10 年生存率に影響を及ぼす因子(生活習慣、食習慣、運動習慣)の検討—コホートスタディー—

## 1. 研究の目的、背景、意義

慢性閉塞性肺疾患は喫煙が主な原因で起こる肺の生活習慣病です。欧米では 1960 年代から禁煙政策が進んでいるため、20 年後には慢性閉塞性肺疾患患者数は頭打ちになるといわれているのに対し、日本は世界第 5 位の喫煙国であるため、日本の慢性閉塞性肺疾患患者数は今後 40 年間増加していくだろうと予測されています。しかし、日本の慢性閉塞性肺疾患患者さんの死亡率は、諸外国の中では最も低く、それは日本の伝統的な食物や生活習慣が慢性閉塞性肺疾患患者さんの死亡を防いでいるのではないかとわれてきました。しかし、今までに日本の食事と慢性閉塞性肺疾患死亡との関連を調べた研究は、行われていませんでした。そこで私たちはまず、2005 年から 2007 年にかけて「慢性閉塞性肺疾患の予防因子」を発見するための調査をし、大豆食品、果物の摂取、生涯を通じて身体活動することが慢性閉塞性肺疾患予防につながることを見つけました。あれから 10 年経過しましたので、今回の調査では慢性閉塞性肺疾患になってもお元気で暮らしていける秘訣は何かを調べたいと考えています。

## 2. 研究の方法

この研究では、2005 年 7 月 1 日から 2006 年 12 月 31 日までの間に本院を含め愛知県、岐阜県、京都にある 6 つの病院に通院されていた慢性閉塞性肺疾患患者さんで、当時行われたアンケート調査にご協力いただいた方 277 名を対象とさせていただきます。

通常診療で使われているカルテに記載されている生年月日、性別を収集し、前回調査の内容と合わせて分析することにより、慢性閉塞性肺疾患になっても元気で過ごせる秘訣を調べます。従って、本研究に伴う研究対象者への不利益は生じません。

この研究を行う期間は、この研究が許可されてから平成 29 年 3 月 31 日までです。

## 3. 倫理的配慮等

本研究の調査対象の患者さんで、調査内容に同意されない方はいつでも参加を取り消すことができます。その場合は、カルテから収集した情報は廃棄され、この研究目的に用いられることはありません。ただし、同意を取り消した時にすでに研究結果が論文などで公表されていた場合には、完全に廃棄できないことがあります。

## 4. データの二次利用について

この研究において得られたカルテの情報は原則としてこの研究のために使用し、研究終了後は、九州大学先端融合医療レドックスナビ研究拠点ネット医療グループにおいて同グループ長・安川圭司の責任の下、3 年間保存した後、研究用の番号等を消去し、廃棄します。

しかし、この研究で得られたカルテの情報等は、将来計画・実施される別の医学研究にとっても大変貴重なものとなる可能性があります。そこで、同意がいただけるならば、前述の期間を超えて保存し、将来新たに計画・実施される医学研究にも使用させていた

だきたいと考えております。これを「データの二次利用」といいます。なお、データの二次利用を行う場合には、改めてその研究計画を倫理審査委員会において審査し、承認された後に行います。

## 5. 研究者等の氏名及び職名

研究責任者：九州大学先端融合医療レドックスナビ研究拠点・助教  
(ネット医療グループ長)・安川圭司

研究分担者：九州大学先端融合医療レドックスナビ研究拠点ネット医療グループ・  
特任助教・平山ふみ(研究計画書作成担当者)

共同研究者：豪州カーティン大学大学院公衆衛生学部・教授・アンディリー  
公立陶生病院・呼吸器内科部長・谷口博之  
小牧市民病院・呼吸器内科部長・小島英嗣  
豊田厚生病院・呼吸器内科部長・谷川吉政  
平松内科呼吸器内科・院長・平松哲夫  
大垣市民病院・呼吸器内科医長・安藤守秀  
京都桂病院・呼吸器内科医・小賀 徹

## 6. 問い合わせ先

豊田厚生病院呼吸器内科・アレルギー科 谷川吉政  
〒470-0396 愛知県豊田市浄水町伊保原 500-1  
TEL：0565-43-5000